２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜一般＞（秋期）出題の意図

試験科目	専門科目Ｂ（教育学系）	講座		研究分野	

（教育人間学）

問題Ⅰ

この問題は、人間の日常的な生活のなかに見られる抽象的・一般的な主題についていかに教育学的な観点ないし教育人間学的な観点から論じることができるのかを観るためのものである。

問題Ⅱ

この問題は、博士前期課程入学後に、教育人間学・教育哲学・教育思想史の領域で研究を遂行していくためのレディネスが一定程度、そなわっているかどうかを観るためのものである。

（教育工学）

問題Ⅰ

問題Ⅰは問題解決を通した学習活動（Problem Based Learning 等）を中心に、現代の学校教育の教育方法について論じるものである。この話題の周辺についての知識を確認するとともに、その利点と課題点を考えさせることを通して、人間や社会、教育問題に関する教養的知識、その知識に基づき思考する態度、批判的思考力および自身の意見を論理的に記述する能力を測る。

問題Ⅱ

問題Ⅱは、教育工学研究に必要となる知識として、教育改革に関する教養的知識および、教育の方法、教育課程、教育評価、教育心理学、研究方法論、統計学に関する学術的知識の理解度を確認するものである。

（教育心理学）

問題Ⅰ

いずれも、教育心理学および司法・犯罪心理学領域における基本的用語であり、理解度を確認するとともに、説明する際の文章力や表現力等を把握するための問いである。

問題Ⅱ

教育心理学的なアプローチに基づき、具体的な心理的支援の計画を立案できるか、研究法に関する基本的な知識を有しているかを確認するとともに、説明する際の文章力や表現力等を把握するための問いである。

２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜一般＞（秋期）出題の意図

試験科目	専門科目Ｂ（教育学系）	講座		研究分野	

（臨床心理学）

問題Ⅰ

1）

・発達検査で評価しているものが何であるかについての理解を問う。

・具体的な検査における評価方法についての理解を問う。

・発達検査の利用における問題点についての理解を問う。

2）

・症状の軽減に留まらない柔軟な心理支援についての理解を問う。

3）

・セルフ・コンパッションについての知識と理解を問う。

問題Ⅱ

1）フォーカシングについての基本的理解を問う。

2）心理支援として用いられる動作法における、動作課題の位置づけやその内容についての基本的理解を問う。

3）臨床心理学の基本的知識を問う。

4）臨床心理学研究における重要な統計技法の理解を問う。

（教育社会学）

問題Ⅰ

質問紙調査のデータを用いて研究課題を遂行するために必要な基本的な知識について問う問題。社会学理論や先行研究の議論・知見をふまえ、社会調査や分析手法に関する基礎的な知識に基づいて、具体的な研究テーマを設定し、研究目的・調査の設計・分析・結果の解釈について、相互に整合性のある、妥当な内容を計画・実施できる準備が整っているかを確認することを意図している。

問題Ⅱ

教育社会学と調査研究に関わる基本的な語句の意味を理解し、簡潔に説明する力の有無を評価することを意図して出題した。

２０２６（令和８）年度大阪大学大学院人間科学研究科
博士前期課程入学試験＜一般＞（秋期）出題の意図

試験科目	専門科目Ｂ（教育学系）	講座		研究分野	

（生涯教育学）

問題Ⅰ

教育のあり方をめぐる異なる論理を理解し、具体的な課題と関連づけて説明する能力および、既存の学術的議論に対する知識と理解を問うために出題した。

問題Ⅱ

広く生涯教育に関わる基本的、今日的な語句の意味を理解し、簡潔に説明する力の有無を評価することを意図して出題した。

（教育文化学）

問題Ⅰ

教育研究と教育実践の関係についての問題。研究がその時々の教育課題に応えることは大切だが、課題の捉え方を再考したり、新しい課題を定式化したりすることも研究の大きな役割である。たとえば、教育社会学では、隠れたカリキュラム論のような学校の日常に潜む排除性・抑圧性を明るみにする研究や、いじめ・不登校をはじめとする教育問題・社会問題の構築過程についての研究がある。こうした研究は差し迫った教育課題の克服に直接結びつくわけではないが、自明される常識を問いなおして教育という社会現象の理解を深めるうえでは非常に重要である。

非教員養成系の人間科学研究科で研究を志す学生として、教育研究と教育実践の、予定調和的ではない、有意性（レリバンス）のずれをも孕む関係をどの程度認識しているのかを把握するために出題した。

問題Ⅱ

教育文化学分野で研究活動を行っていくうえで不可欠な概念を並べている。これらの概念を適切に説明できるかどうかを確認することで、博士前期課程に求められる能力の水準に達しているかを測定する。